

一次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

日本人は世界有数の「ねこ好き」国民といわれています。街のなかで、ごく当たり前のように「ねこのキャラクター」や「ねこグッズ」を目にするのは、どうやら日本特有の光景のようです。外国人から見ると多くの驚きがあるそうです。

わたしが昔、ノラねこの研究をしていた福岡県の相島へは、最近の「ねこブーム」の影響もあって、たくさんの人がノラねこに会いに訪れます。若い女性のグループもいれば、カップルもいます。ねこ大好き家族や、動物カメラマンまで。そのなかで、近年よく見るのは外国人です。日本への観光の目的のひとつが国内に点在する「猫島めぐり」という人もいました。

2014年、わたしのもとを訪ねてきたドイツ人の若い男女は、日本に数カ月滞在しながら、全国の「ねこスポット」をめぐっているとのことでした。彼らの来日の目的は日本人とねことの深い関係、そして、日本の「ねこ文化」をテーマとした映画の撮影でした。作品はドイツの映画祭に出品するそうです。

ねこ好きの外国人が口をそろえていうことには、日本は「ねこ文化大国」で、日本人ほどねこ好きな民族は他に存在しないとのこと。具体的には、日本のどんな大都市でも、路地に足を一歩踏み入れれば、そこにはあたり前のようにノラねこが暮らしている。さらに、街には「ねこ」がデザインされた服や小物を身につけた子供や女性があふれ、店に入れば何かしらの「ねこグッズ」が売られていて、書店などではねこの写真集のコーナーまである。このような光景に、海外からの旅行者は驚き、特にねこ好きの外国人はゴウフンするそうです。少なくともこんなねこまみれの光景は、ヨーロッパではあり得ないことなのだ。

日本人にとっては、ごくごく日常的でありふれたことであっても、海外の人の目には、とてもユニークで、そしてクールに（カッコよく）映るものがあります。彼らのネッキョウウ的な反応によって、わたしたちは少し戸惑いながらも、自国の文化や習慣のユニークさや素晴らしさにあらためて気づかされることも珍しくありません。ア、寿司や蕎麦などの和食、日本の伝統文化や職人の技、最近のものではマンガやアニメ、ファッションなどがそれにあたります。そして、日本人とねことの深い関係も間違いなくそのひとつのようです。恥ずかしながら私自身も、外国人のねつきようぶりによって、そのことを再認識させられました。

日本人とねことの関係の始まりは、いまから1400年ほど前の飛鳥時代（最近の研究からは弥生時代の可能性も）の頃までさかのぼ

るといわれています。中国からの、ありがたい仏教の経典をネズミから守るため、経典とセットでねこが持ち込まれたとの説もあります。ノウコウ民族である日本人にとって、ねこはとても役に立つ動物でした。いうまでもなく、瑞穂の国の日本では、米は食と生活、そして文化の原点です。その大切な米を食い荒らすネズミは、日本人の天敵といっても過言ではないでしょう。そんなネズミを次々と退治してくれるねこの登場は、当時の人々にとっては、少しおおげさかもしれませんが、救世主のようなものだったのかもしれない。米だけでなく、絹糸を生産する養蚕業にとっても、ねこは必要不可欠な存在でした。絹を吐くカイコをネズミから守るために、一昔前までは、養蚕の盛んな土地ではたくさんのねこが飼われていました。ねこが足りなくて、ねこを描いた絵を壁に貼って、ネズミ除けにした時代もあったくらいです。

イ、四方を海に囲まれた島国日本は、古来より漁業が盛んな国でもあります。昔の船は、「板子一枚下は地獄」といわれる木造船でした。船をかけるネズミは、漁師の生活どころか、命さえも奪いかねません。漁村においても、ネズミを退治するねこは、当然のことながらチヨウホウされ、船の守り神として大切にされてきました。わたしたちがねこを特別な動物として大切にしている習慣は、農業や漁業を生業とする日本人の生活特性と深く結びついています。日本人がねこ好き民族である理由は、第一にこのあたりにあるように思います。

ねこにとっても、日本人とともに暮らす生活は、十分に快適なものでした。湿気の多い気候にあわせてつくられた、昔の日本の木造家屋には、ねこが自由に出入りできる隙間がたくさんあり、軒下や天井裏など、ねこが出産したり、身を隠したりする場所もたくさんあります。さらに、食べ物に関しても、海辺の漁師町では魚のアラや雑魚などのエサが豊富にあります。ねこにとってほとんど栄養にもならない、麦飯にみそ汁をかけただけの「ねこまんま」しか飼い主から与えられないとしても、家のなかにはネズミもいますし、外に出ればエサとなる小動物たちがたくさんいました。自然に恵まれた日本の環境は、ねこにとっても随分と暮らしやすいものであったようです。

ウ、このような双方の利益の一致から、ねこをわたしたち日本人は、お互いにかけてあげがえのないパートナーとして長年一緒に暮らしてきました。この蜜月関係は、ねこがネズミを捕るという役割をほぼ終えてしまった現在も、少しずつ形を変えながらも続いています。

ウ、これほどまで身近な動物でありながら、わたしたちはねこに秘められた素晴らしい能力について、つまり「ねこのすごさ」について、知っているようで、実はあまり知らないことも多いのではないのでしょうか。それもそのはず、家のなかにいるねこは、ご飯を食べている時と遊んでいる時以外は、ほとんど一日中寝て過ごしています。普段の生活態度を見ている限りでは、ねこは、なんとも気ままで、お気楽な生き物なのだろうと思われても仕方ありません（そこがまた、ねこの魅力ではありますが）。しかし、遊びに興じている飼いねこの

ちよつとしたしぐさのなかに、あるいは街のなかで、高い塀に軽々と登ってしまうノラねこの姿を目撃して、さらにはネットで話題になった、身を挺して大型犬から飼い主の子どもを守る勇ましい行動に、ねこの底知れぬ能力を、「ねこのすごさ」のほんの一部を見て、びっくりすることはないでしょうか？

〔エ〕、ねこの身体能力や感覚器の鋭さは、いまから約1万年前の、野生のヤマネコだった時代から、ほとんど失われていません。獲物に音も立てずに忍び寄り、射程内に入れば、一気に飛びかかって瞬時に獲物の息の根を止めてしまう。そんな凄まじい野生のハンターの身体能力をそのまま持ち続けた動物と、わたしたちはひとつ屋根の下で一緒に暮らしています。いわば、ねこの大きさにした獐猛なトラやライオンと、一緒に暮らしているようなものです。

(中略)

ねこは本来、ネズミを捕るといふ能力が高く評価されて、人間に大切にされてきました。しかし、日本をはじめ多くの先進国では次第にその役割を終えようとしています。それでもなお、人はねこを暮らし続けています。その理由は、ねこを飼ったことのある方にはいわずもがなですが、ねこと一緒にいることで、人々は心が癒され、日々の生活に潤いや張り合いを与えてくれるからです。〔I〕「ねこカフェ」が、都市部を中心に人気を集めるのもそのような理由からなのでしょう。〔II〕さらに、この癒しの効果は、ねこを家で飼ったり、「ねこカフェ」などで、かわいいねこのふれ合いによって得られるにとどまりません。〔III〕漁師町や山里、そして都会で、たくましく生きるノラねこの素の姿をとらえた写真集がよく売れていることから明らかのように、気ままなねこの生き方を眺めるだけでも人々は癒しを得ています。〔IV〕何物にも縛られない、自由気ままなノラねこの姿を見て、なにかと集団で行動することの多いわたしたちは、そんな生き方に憧れ、つかの間の自由な生き方をギジ体験しているのではないのでしょうか。〔V〕

(山根明弘「ねこはすごい」より)

問一、——線部A～Eのカタカナを漢字に改めなさい。

問二、本文中の空欄〔ア〕～〔エ〕にあてはまる接続詞を、次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① そして    ② たとえば    ③ 実は    ④ つまり    ⑤ しかし    ⑥ さらに    ⑦ また    ⑧ それとも

問三、次の文は、本文中の一文である。この文は本文中の〔I〕から〔V〕の内でのどの箇所に入るべきか。最も適当な箇所を選び、その記号を塗りつぶしなさい。

特にストレスの多いといわれる現代社会では、心を癒してくれるねこの役割が、今後ますます注目されると思います。

- ① 〔I〕    ② 〔II〕    ③ 〔III〕    ④ 〔IV〕    ⑤ 〔V〕

問四、——線部①の「そのこと」が指し示す内容を本文中より二〇字で抜き出し、その最初の五字を答えなさい。

問五、——線部②「わたしたちがねこを特別な動物として大切にする習慣は、農業や漁業を生業とする日本人の生活特性と深く結びついています。」について、日本人とねこの関係を表す言葉を本文中から四字で抜き出し、答えなさい。

問六、——線部③「このような双方の利益の一致」とはどういうことか。これを説明したものと最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① 日本人にとってねこは食べ物を守るために必要な存在であり、ねこにとって日本人は食べ物を定期的に与えてくれる存在であること。
- ② 日本人にとってねこは生きるために必要なものをネズミから守る存在であり、ねこにとって日本は生活する上で住みやすい環境であること。
- ③ 日本人にとってねこは海外に対して日本が誇るべき文化の一つであり、ねこにとって日本は手厚く保護し生活を保障してくれる環境であること。
- ④ 日本人にとってねこはその生き方を通して癒しを与えてくれる存在であり、ねこにとって日本人はネズミの被害から守るべき存在であること。
- ⑤ 日本人にとってねこはその能力について研究する対象であり、ねこにとって日本人はネズミを捕る役割を失っても大切にしてくれる存在であること。

問七、本文の内容について、適当でないものを、次の中から一つ選び、その記号を塗りつぶしなさい。

- ① 日本が「ねこ文化大国」であることを、筆者は海外の人々の反応から改めて気づかされた。
- ② ねこはネズミから食べ物を守るだけでなく、産業や人間の命を守ることに役立った。
- ③ ねこは日本の食と生活、文化の原点である米を守るために、海外から輸入されてきた。
- ④ ねこが秘めている能力は一万年前からほとんど失われておらず、獲物を捕る際に発揮している。
- ⑤ ねこの生き方は人々に癒しを与えており、都市部を中心に「ねこカフェ」が注目されている。